

＜巻頭言＞

「CIRIEC を通して国際的活躍の場を広げる機会に」

国際公共経済学会副会長 兵庫大学副学長 田端 和彦

市場メカニズムのグローバルな広がり、途上国の所得水準の向上、先進国においては安価での商品入手や容易な移動という果実をもたらしました。しかし、ICT を活用するグローバル化で一気に流動性を高めた金融資本は、各国の市場化で膨張し、格差の拡大という課題を表面化させることになりました。2008年のリーマンショック後、市場化見直し論もあり、また COVID-19 の拡大を抑える政府の役割が巨大化し、改めて公的サービスの提供についての議論も盛んになっています。

グローバル化のこれ以上の進行に対しても警戒感が持たれ、イギリスの EU 離脱やトランプ前大統領の登場など、いわゆる自国優先の考え方が先進国で目立つようになりました。極めつけが、ロシアによるウクライナ侵攻であり、その後、西側諸国との対立が激化しました。さらに米国を主体とする中華人民共和国に対するハイテク分野でのデカップリングの方針もあり、資金や情報の流通、交易、人の移動にも影響を与えるようになっています。

市場と政府を巡る昨今のグローバルな変化を捉える時、国際公共経済学会の役割はより大きなものがあると思われます。国際公共経済学会は、ベルギーのリエージュに本部を置く、CIRIEC（“Centre International de Recherches et d'Information sur l'Economie Publique, Sociale et Coopérative”「公共・協同経済研究情報国際センター」）の日本のナショナル・セクションとして設立された経緯もあり、拡大するグローバルな課題に対し、日本を代表して一定の貢献が求められています。貢献の場としては、公営企業・公的サービス、及び社会的・連帯経済に関わる2つの国際科学委員会での調査研究への参画、あるいは隔年開催の国際会議（International Congress）や同じく隔年での社会的経済に関する研究大会（International Research Conference）への出席などがあります。

新型コロナ感染症の影響の残る2022年6月にスペインのバレンシアで開催された第33回 CIRIEC International Congress では、New Global Dynamics in the Post-Covid Era をメインテーマに、基調講演者にポール・クルーグマンを招待、新型コロナパンデミック後のアメリカ経済のインフレ課題にも言及がありました。そして分科会ではヘルスケアやインフラ、ガバナンスなど多様なテーマで情報が交換されました。翌、2023年5月にギリシャのテスタロニッキで開催された Facing the (G)local Emergencies をテーマとするシンポジウムでは、都市の公共サービス問題などが討議されました。7月、ソウルでの第9回 International Research Conference では、ILO とも連携し各国の社会的・連帯経済の統計の討議が印象的でした。多くの日本の研究者も参加し、報告の他、他国の研究者とも盛んに交流をされていました。CIRIEC は欧州を中心とする研究者、実務家の集まるアカデミックな場です。事務局長の Sak 女史は国際研究のために是非とも CIRIEC を活用して欲しい、と述べています。

さて、内外で課題山積の日本や欧州各国に対し、存在感を増しているのが、グローバル・サウスと呼ばれる国々です。南米諸国は幾度かの経済危機の中での社会的経済の伸長もあり、CIRIEC では以前より存在感と発言権を強めています。またトルコは有力なメンバー国であり、今年、「グローバル社会的経済フォーラム（GSEF）」が開催されたセネガルにも参加を呼び掛けています。

国際公共経済学会での活動は、欧州各国のみならず、グローバル・サウスの研究者や実践家との協働の機会ともなります。来年、4月24日からコスタリカで第34回 CIRIEC International Congress が開催されます。この機会に参加されませんか？